

エチオピア航空「African Airline of the Year」受賞

2014年11月18日

2014年11月9日から11日にかけてアルジェで開かれたアフリカ航空協会の第46回総会で2014年の「African Airline of the Year」（最優秀アフリカ航空賞）にエチオピア航空が選出されました。同賞の受賞は2013年に続くものでエチオピア航空はその安定した収益率とアフリカの他の航空会社との連携による空路網の強化をはかるなどの事業戦略が成果を挙げておりAFRAAによる選出は3年連続となりました。

エチオピア航空最高経営責任者(CEO)のTewolde Gebremariam氏は「アフリカの航空会社を代表してこのような賞を頂いたことは日々お客様への最高のおもてなしを尽くしている私たちエチオピア航空に携わる8000人以上の従業員にとって素晴らしい栄誉です。またエチオピア航空をご利用頂いているお客様皆様に感謝を申し上げます。エチオピア航空は引き続き安定した収益を挙げていくために我々の事業戦略である「Vision 2025」に基づいた経営を推進していきたいと思っております。」

しかしながら「アフリカ経済が急成長を遂げて旅行分野も著しく発展する一方で、その恩恵を受けているのがアフリカ以外の地域に拠点を置いている航空会社であるという現状に対し、アフリカ航空協会が危機感を募らせている」とも説明しました。

そして「その打開策としてアフリカの航空会社同士の提携強化が重要であり、アフリカ最大の飛行訓練センター、航空機整備施設や経営ノウハウと言った分野での協力の必要性」を説きました。

また「アフリカを一つのマーケットとして捉え、アフリカ外の航空会社に対抗すべく結束することが重要である。アフリカの各国政府には大陸内の航空業界発展の為、速やかな環境整備を要請する」とも強調しています。

アフリカを代表する航空会社であるエチオピア航空はB777及びB787の最新機材で毎日5大陸84の国際就航都市200を超える運航便で結んでおります。2014年8月にはエアラインユーザーの顧客満足度調査に基づき決定される「Passenger Choice Awards」で「Best Airline in Africa」賞を受賞しています。

エチオピア航空について

エチオピア航空は現在アフリカ大陸でもっとも躍進著しい航空会社で2014年には国際航空運送協会(IATA)により営業収益ならびに営業利益に於いてアフリカ最大の航空会社であると認定されました。1962年にはアフリカ大陸初のジェット機の運航を開始、1984年にはアフリカ初のB767機材導入、2010年にはアフリカ大陸初めてのB777-200LRを投入し、2012年には日本以外では世界で初めてB787 Dreamlinerを導入したエアラインとして知られおり、とりわけ過去7年間にわたりアフリカの航空会社をリードすべく最新機材の導入を積極的に進めています。

エチオピア航空は使用機材年数も短く常に最新鋭の機材を投入して5大陸83国際都市を結んでおり旅客、貨物の輸送分野においてマーケットシェアを広げています。所有機材には環境への配慮も優れた超近代的なボーイング787に加えボーイング777-300ER、ボーイング777-200LR、ボーイング777-200LR貨物機、ダブルキャビン仕様のボンバルディアQ-400を保有しておりこれらの機材で運航を行っているアフリカの最初のエアラインでもあります。

エチオピア航空は現在、「ビジョン2025」と称する15年の戦略計画を進めており7つの分野、エチオピアインターナショナルパッセンジャーサービス、エチオピアリージョナルサービス、エチオピアカーゴ、エチオピアMRO、エチオピアエイビエーションアカデミー、エチオピアインフライト ケータリングサービス、エチオピアグランドサービスの分野においてアフリカ有数の航空会社グループになることを目標に掲げています。エチオピア航空はSKYTRAX、2013年のPassenger Choice Awardを含む数々の受賞を受けており、社内業績は過去7年にわたり平均年率25%の成長実績を挙げています。